

健康長寿に係るイチオシ事業(概要版)

ICT&SIB の活用により長寿命化と扶助費の
増加抑制を可能とする飛び地連携型大規模ヘルスケア事業

事業概要

美里町では人口減及び加速する高齢化に伴う扶助費の増大という課題に対して、平成30年度以前も町民の健康意識の向上及び生活習慣病の予防を目的として健康づくり事業を実施していたが、効果が限定的であり、健康施策の見直しと大規模な事業展開が必要であった。

そのため、今年度からICT及びSIB(ソーシャル・インパクト・ボンド)を活用し、5年後に扶助費抑制効果額12億円を目指し、5自治体の広域連携により健康づくり事業を実施している。また、地方創生推進交付金終了後も継続した事業展開ができるようSIBモデルを構築する。

※連携自治体 山口県宇部市、岩手県遠野市、京都府八幡市、鹿児島県指宿市

事業内容(参加者数・予算等)

- 実施事業
 - ・ミムリン健幸ポイント事業(参加人数:2,593人)
国の実証実験により医療費抑制効果が認められたポイントロジックを活用
 - ・運動教室(参加人数:202人)
個人の体力や年齢にあった個別運動プログラムを活用
- 予算額
52,900千円

事業効果

- 5年後の目標に向けて毎年 KPI を設定している。
連携自治体などとの定期的な KPI 達成率の共有や合同会議等により、参加者の平均歩数が低く新規参加者の歩数の増加量が少ないなどといった課題が明確化され、より効果的な事業展開へつながった。
- SIBの活用により、サービス主体が民間事業者、目標達成度に応じた成果型支払となるため、町職員の業務量が軽減されるとともに、より質の高いサービスが期待できる。
- 5自治体の広域連携によるICTの活用によりシステム利用料などで大きなスケールメリットを得られた。
- ポイント事業及び運動教室の実施による医療費抑制効果の検証と併せて町全体や地域ごとに様々な角度から医療費、健康課題及び要因等の分析を行い、多角的に町の健康施策を検討する。